

神戸市の親善都市フィラデルフィアって知ってる？

ニューヨークデスク 大西ジョシュ

1 フィラデルフィア × 兵庫県・神戸市

神戸市には、8つの姉妹都市と2つの親善都市があるのをご存知だろうか。米国ではワシントン州シアトル市が姉妹都市であり、ペンシルバニア州フィラデルフィア市が親善都市である。姉妹都市シアトルのあるワシントン州は、兵庫県と友好・姉妹提携を結んでいる。高校生の交換留学や経済、文化交流などを通して、多くの有意義な実績を残してきている。

さて、今回は、2026年に神戸市と親善都市提携40周年を迎えるフィラデルフィアに注目してみたい。フィラデルフィアは、人口では全米で6番目に大きい都市である。東海岸では金融の中心であるニューヨークに次いで2番目に大きい。そのニューヨークからはアムトラックという電車で1時間余りで着く。ちなみに、政治の中心であるワシントンDCには、南に電車で2時間ほど。立地条件にも恵まれている。

2 フィラデルフィア × スポーツ・文化

アメリカ合衆国誕生の地であるフィラデルフィアは、米国の4大メジャースポーツ球団があり、オーケストラ、バレエ団など、米国を代表するスポーツと文化をまとめて体感できる街である。フィラデルフィアオーケストラには、日本人の演奏家も所属しており、フィラデルフィアバレエ団には現役の日本人プリンシパルのバレエダンサーも在籍している。日本では報道されていないが、世界の第一線で活躍している日本人は意外に多い。日本でもチケットが即完売する天才バイオリニスト「HIMARI」さんは、わずか10歳でフィラデルフィアカーチス音楽院に飛び級留学しており、13歳の今年、フィラデルフィアオーケストラとの年末公演も行う。

フィラデルフィア美術館は全米の4大美術館の一つでもあり、丸一日かけて楽しめるコレクションが展示されている。美術館に続く階段は、映画「ロッキー」の名シーンで使われ、今でも階段の下にはロッキーの銅像が飾られている。階段を駆け上がり、ガッツポーズで「エイドリアン！ 笑」と叫んでもらいたい。



映画「ロッキー」の銅像
(写真: The PhiladelphiaInquirer より)

3 フィラデルフィア × 日本のお礼

フィラデルフィアにゆかりのある日本人は日本のお礼との相性がいみじみだ。旧1000円札の野口英世は、ニューヨークに移る前はフィラデルフィアにあるペンシルバニア大学で研究していた。旧5000円札の肖像である、新渡戸稲造も、フィラデルフィア郊外に住んでいた。米国第26代大統領セオドア・ルーズベルトは、新渡戸の書籍「武士道」をリーダーシップを学ぶ教科書として、息子にも勧めていたほどだ。元々、英語で書かれ、後に日本語訳されたこの「武士道」は是非、英語で読むことを薦めたい。その新渡戸と仲が良かったのが、当時、フィラデルフィア郊

外にあるプリンマー女子大学に留学していた、新5000円札の顔、津田梅子である。日本の女子高等教育の魁となる女子英学塾（現津田塾大学）を作った彼女だが、プリンマー女子大の留学経験の影響が大きい。フィラデルフィア郊外にあるクエーカー友会に通っていた2人だが、その友会は、今は私立フレンズセントラルスクールという学校になっている。土曜日はその学校を借りて、日本人補習校が開かれており、補習校の職員室として使用している同じ場所で、130年前に新渡戸稲造と津田梅子が談笑していたかもしれないと思うと、思わず笑みが溢れる。

4 フィラデルフィア × AIスタートアップ

アメリカでは、メンバー限定の社交クラブがあるが、男性しか入れないクラブも多い。そんな中、1889年に女性限定クラブ「The Acorn Club」がフィラデルフィアに創設された。当時としては、画期的なことだろう。ちょうど、津田梅子が留学した時期と重なり、大学だけではなく、社交の場でも女性の活躍の場を広げていこうという機運が見て取れる。

この歴史ある「The Acorn Club」で、2024年11月6日にフィラデルフィア日米協会、在米日本国大使館による「AIとライフサイエンス」のセミナーが開かれた。私もフィラデルフィア日米協会の理事として、イベントの運営に携わった。この日は、米国大統領選挙の翌日ということで、街では暴徒による無差別の襲撃もあり、少し緊張感がある中での開催となった。60名の定員が満席になったセミナーには、日本のAIスタートアップの会社を含む7名が登壇した。AIといっても様々な技術があるが、今回実用化が進んでいるものとしては、「コンピュータビジョン」を使用した手術の写真、映像解析によるデータ分析、その膨大なデータを「機械学習」させたものが発表された。医者を補助するためのAI技術の導入により、難しい手術の成功率を上げることが期待される。日本のAI技術のスタートアップのプレゼンを聞きながら、このような会社がどんどん世界に挑戦してほしいと感じた。



「AIとライフサイエンス」のセミナーにて
(写真: 筆者撮影)

5 おわりに

我々のビジネスも90年代にパソコン、2000年代にスマホという道具なしでは成り立たなくなった。AI技術も数年後には、生活やビジネスで欠かせない道具になっていることだろう。ものづくりの技術で世界経済を牽引してきた日本に、AI技術を使ったものづくりで、再度、世界をリードするチャンスが訪れているかもしれない。その結果、日本のお札の顔になるような、次世代の野口英世、新渡戸稲造、津田梅子が現れる日が来るのが楽しみだ。

ひょうご海外ビジネスセンターは、世界10カ所に海外展開現地相談窓口として「ひょうご国際ビジネスサポートデスク」を設置しています。本通信は、毎月1回、各デスクから寄せられる現地トピックスを順にお届けするものです。

【発行 公益財団法人ひょうご産業活性化センター ひょうご海外ビジネスセンター】